

「G20新潟農林水産大臣会合」展示会への出展について (営農型太陽光発電)

農林水産省
食料産業局

- 2019年5月11～12日に開催されたG20新潟農林水産大臣会合に併せて、我が国のハイレベルな農業技術や高品質な農産物等をアピールする目的で、会合のテーマ等と関連した展示会を開催。
- 「SDG s 達成に向けた取組」の一環として、農林水産省と（一社）ソーラーシェアリング推進連盟（事務局：（株）千葉エコ・エネルギー）が共同で営農型太陽光発電の展示ブースを設置。国内外に向けて、農地で農業と太陽光発電事業を同時に行う新しい農業モデル「営農型太陽光発電」をPR。

○ 概要 (G20新潟農業大臣会合展示会)

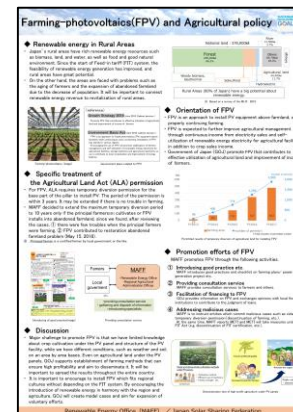
- 【日程】 2019年5月10日(金)～12日(日)
 【場所】 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
 【対象】 G20新潟農業大臣会合参加者、メディア
 【テーマ】 農業・食品分野の持続可能性に向けて
 ー新たな課題とグッドプラクティスー
- 人づくりと新技術
 - フードバリューチェーン
 - SDGs等



○ 内容 (営農型太陽光発電)



展示ブース外観



ポスター展示



会場（朱鷺メッセ）外観



映像展示



模型展示

展示風景



メンバー集合写真

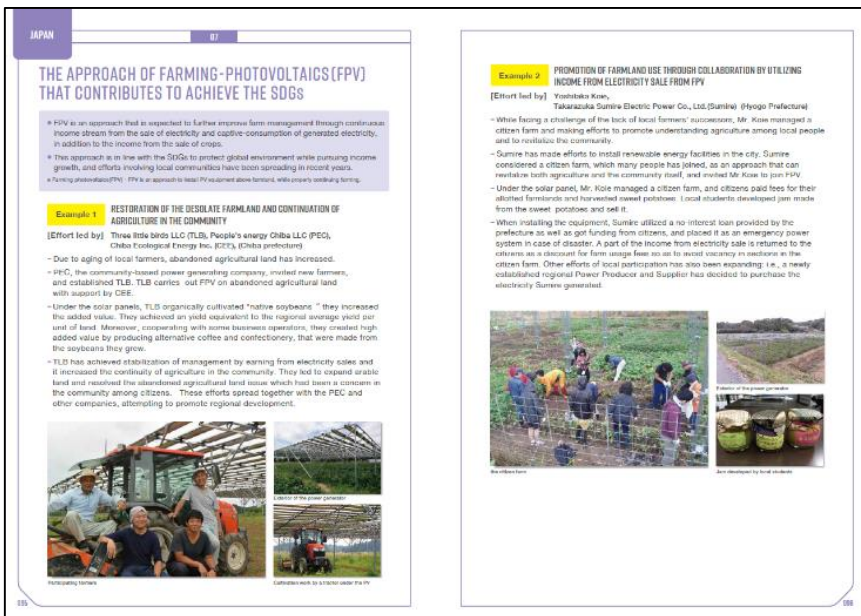


説明の様子 1



説明の様子 2

G20新潟農業大臣宣言付属文書（持続可能な農業・食品分野に向けたG20優良事例集） 抜粋



内容 and 訳

【千葉県匝瑳市の事例】

- ・農業者の高齢化等により畑の荒廃が拡大。
- ・地域に根差す発電事業者である市民I礼ギ-ちばの声掛けで、新規就農者等が参画して農業法人Three little birds (TLB)を設立。千葉県I礼ギ-のサポート等により、荒廃農地での営農型太陽光発電を実施。
- ・パネル下では、有機農業により「在来大豆」等を栽培し、高付加価値化。収量は地域単収と同等確保し、大豆を原料とした代替コーヒーや菓子の製品等、県内事業者と連携を図り6次産業化にも取り組む。
- ・TLBは売電収入の下支えを受け安定経営を実現し、地域農業の継続性を高め、耕作面積の拡大で地域の懸念である荒廃農地が解消。取組は他社にも波及し、市民I礼ギ-ちば等関係者が一丸となった地域振興に取り組んでいる。

【兵庫県宝塚市の事例】

- ・地域全体で後継者不足等の問題を抱える中、古家氏は市民農園を運営し、農業理解の促進と地域の活性化に尽力。
- ・地域で再エネ普及に取り組んできた宝塚すみれ発電は、農業も地域も活性化できる取組と考え、多くの人が参加する市民農園に注目し、古家氏と営農型太陽光発電を実践。
- ・パネル下では古家氏が市民農園を運営し、市民が利用料を払い、かんしょを収穫。地元学生がジャムを作成し販売。
- ・発電所設置に当たっては県の無利子融資制度を利用すると共に市民出資を募り、災害時の非常用電源としても位置付け。売電収入の一部を農園利用料割引として市民に還元し、空き区画が出ないよう工夫。発電電力を地域新電力が買い取るなど、地域参加型の取組が広がっている。

- 大臣宣言に付属して優良事例集を公表。
- 営農型太陽光発電については、千葉県匝瑳市の取組と兵庫県宝塚市の取組を紹介。